

# テルモ株式会社

## 1. 会社の概要

- (1) 会 員 名：テルモ株式会社
- (2) 所属部会：関東化学第二部会第2分科会
- (3) 資本金及び社員数（2017年3月31日現在）  
資本金：387億円  
社員数：22,441名（連結）／4,733名（単体）
- (4) 営業品目：医療機器・医薬品など
- (5) 当社の理念と主な事業

テルモは、1921年に北里柴三郎博士をはじめとする医師らを発起人とする国産体温計を作る会社として設立されました。当社は「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、設立時の製品である体温計から、注射器、輸液剤、人工肺、血管造影用カテーテルなど病院内で使われる医療機器への多角化、さらに海外進出を進めてきました。

当社は、大きく分けて3つの事業部制をとっており、心臓血管カンパニー、ホスピタルカンパニー、血液ビジネスカンパニーから構成されています。この中で心臓血管カンパニーが近年売上を伸ばしており、この事業に牽引され会社全体の海外売上比率が60%を超えています。

- (6) 会社のグローバル化

テルモは、いくつかのM&Aを重ねグローバル化を加速させてきました。これらのM&Aによってテルモグループに加わった会社としては、開胸手術に使用される人工肺等の事業を担当するテルモカーディオバスキュラーシステムズ社、脳血管等の事業を担当するMicrovention社、人工血管等の事業を担当するVascutek社、血液バッグや成分採血装置等の血液事業を担当

するTERUMO BCT社等があり、それぞれの事業の本社機能は海外に置きながら事業を取りまとめています。

- (7) CIマーク



当社は2014年に、長年使用してきたコーポレートロゴ  TERUMO<sup>®</sup> を  TERUMO に一新しました。

新たなロゴには、テルモがこれまで築いてきた価値と信頼を継承しながら、新たなステージに立ち、更なる飛躍を目指すという意志が込められています。

また、2015年1月にはグローバルビジョン「Innovating at the Speed of Life」が設定されました。このビジョンは、私たちが、世界で絶え間なく変化する社会の環境と、科学と技術の進化の中で、患者さんのいのちに寄り添い、いち早く、医療の現場に新たな価値を届けるという想いです。

## 2. 知的財産部門の概要

### (1) 組織上の位置

知的財産部は、社長直轄の本社部門に位置付けられ、本社と研究開発センターに所在します。メンバーの多くは研究開発センターに席を持ち、開発の現場において発明等の発掘、出願・権利化、調査活動を行っています。

### (2) 構成及び人員

知的財産部は、特許チーム、管理商標チームの2つのチームで構成されており、30名強を要しています。特許チームは、事業部毎のチーム

から編成されています。

特許チームは、開発現場で日々の業務をFace to Faceで進めています。現在、1名が米国拠点のTerumo Americas Holding社に駐在し、知的財産部のない米国内拠点における知的財産活動を支援しています。また、数名のメンバーは、東京の本社に席を置き、経営や事業部との連携強化を図っています。

管理商標チームは、知財契約を審査するメンバーも含み、特許以外の商標やテルモの知的財産のデータ、インフラを管理、担当しています。

商標は、事業部と連携し商標権の選定のための調査、出願・権利化活動を行い、商標権の保護を図っています。また、模倣品が発生した場合にも対策を図り、ブランド構築に努めています。

### 3. わが社の知的財産活動

#### (1) 知的財産部のビジョンとミッション

知的財産部の現在のビジョンは「知財を通じて『持続的かつ収益力のある成長』に貢献する」であり、ミッションは、「成長領域での競争力向上のための特許強化」を掲げています。

日常は知的財産の基幹業務を地道に行っていますが、その活動は、それぞれ異なるモデルで展開している各事業の成長に、いかに貢献するかということを常に念頭においています。

#### (2) 知的財産の出願状況

会社の成長に合わせ、2009年から特許出願数を増加させてきましたが、最近是国内の権利数について横ばい傾向を維持しながら、事業のグローバル化に合わせて海外での権利数を増やしています。とりわけ米国にあっては、医療機器は特許権侵害訴訟の件数が多く、特許権者の勝訴率が高いとともに、高額の損害賠償金が決定される産業との統計もあり、当社が重点的に特許強化に取り組んでいる国です。日本では保護の対象にならない所謂「手技」のような方法の発明の検討等、米国特許権利化実務に鑑みた発

明の多面的な保護を意識しています。医療分野における「日本発のグローバル企業」を目指した活動と位置付けています。

#### (3) 知的財産部のグローバル化

海外企業の買収は、内部成長による事業のグローバル化に加速度的に作用しています。知的財産部は、自社開発の成果やコーポレートブランドのみの保護や活用のみならず、海外拠点に対しても目を向け、知財についての共通の価値観等を醸成する活動を展開しています。そのためには、コミュニケーションの充実とその土台となる情報の共有化は必須であり、特許・契約管理システムや調査システムの統合を検討しています。

#### (4) 知的財産の業務改善

知財の業務が多様化し、尚且つ担当範囲が拡大している中で、限られた社内の人的リソースで対応するためには、業務の効率化や社外の優秀な専門家へのアウトソーシング等を検討し、試行しています。

コスト意識を持った知財活動の実践も重要方針の一つとして掲げ、コストの最適化活動を進めています。社内の知的財産部員が担当すべき業務とは何かを考え、価値の高い業務へ集中できる環境作りを目指しています。

### 4. 今後の取り組み

「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念に沿って、2017年度からスタートした中長期成長戦略を確実に達成するためには、医療分野にあってもAI生成物についての知財制度やビッグデータ等についての情報財の保護と利活用のあり方等の知的財産の活動範囲をこれまで以上に拡大すると同時に、タイムリーな対応をしていくことが求められています。知財のグローバル人材育成や働き方改革にも取り組んでいきます。

(原稿受領日 2017年12月18日)